



越後 久美子

Kumiko Echigo

## INTERVIEW

2

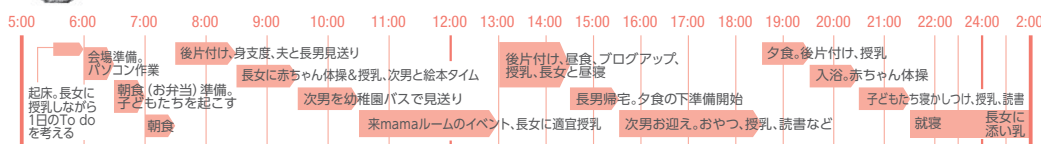
### 子育ての不安や悩みを共有できる サロン「来 mama ルーム」にしたい

子連れでよく出かけていましたが、託児付きや子連れ OK の講演会や勉強会が少なく不満でした。いつしか「ママさんたちの集いの場」をつくりたいと考え、2012年に自宅の一室で「来 mama (きまま) ルーム」を開始。ところが2013年ひとつの転機を迎えました。出産した長女がダウン症と判明。落ち込みました。これまでの交流や学びのおかげで次第に前向きになり、いま娘は新たな気付きと出会いをもたらしてくれる愛しい存在に。以前あるダウン症児のママさんが交流サロンに来て、「息子のダウン症を気にせずにご過ごせてよかった」と。本当にうれしかった。これからも「何のためにやっているか」を常に頭の片隅に置き、精神的、肉体的、経済的なバランス感覚を失わないように心がけたいですね。

子育てはブランクではなくキャリアだと思うので、社会全体が意識を転換していくことが大切ではないでしょうか。



#### タイムスケジュール



「来 mama ルーム」でイベントを開催するときのスケジュール。本当はもっと細かいらしいが割愛して紹介。それでも3人の子育てに奮闘する母の1日はスーパーハードだ！



#### PROFILE

1974年、富良野生まれ。旭川育ち。札幌の大学に進学し、卒業後は高校教諭に。2004年結婚。翌年妊娠を機に退職して長男出産。慣れない育児に孤独感、孤立感を深める。魔法の質問キッズインストラクター&カードマスター、前向き子育てプログラムファシリテーター。

#### 現在の仕事(活動)について

自宅の一室を「来mamaルーム」と名付け、主に乳幼児のママさんたちに「リフレッシュの場」、「つながりの場」、「学びの場」、「情報交換の場」を提供しています。子連れで参加できる講座や座談会、交流会サロンなどを不定期に開催。

#### プライベートの過ごし方

ヨガ、読書、ブログやSNSなどでの発信、投稿。2006年より北海道新聞社「読者の声」に投稿。2013年5月には北海道新聞『読者の声』投稿採用集、「子育てはキャリアでしょ!」を自費出版し、各種メディアで取り上げていただきました。





## 子連れで参加できる講座や交流会を開催！

### 「やりがい」だと感じられること

自宅の一部を開放する「住み開き」といわれるこのスタイルで、「来mamaルーム」を行っています。自宅にいながらにして多くの方と出会うことができ、有益な情報やご縁を得ることができるのが、おもしろさであり、やりがいだと思います。

### 忘れられないエピソード

約8年前、長男出産後に感じた孤立感、閉塞感が今の活動の原動力です。子どもがいるからこそその視点、経験を生かせるのが利点。2013年7月に生まれた長女がダウン症児なのも、この活動をしていく上ではむしろわたしの「強み」がひとつ増えたと感じています。

### 仕事と家事の両立で工夫していること

何事も無理し過ぎない、家族にも無理はさせないをモットーに、自分と家族の体調管理に一番気を使っています。家事は完璧を求めない。家電や子どもたちを含めた人手を駆使して、ひとりで抱え込まないようにしています。

### 女性が活動する上で不足していること

社会集団の最小単位である「夫婦」がまず手を取り合って子育てを「する」、「させる」という意識が社会に広まるといいと思います。さらに、「社会が子どもを育てる」という意識をもっと人々が持つようになるとよりよいと思います。

### 札幌を拠点に活動することについて

札幌は、広いようで狭い。人も多いようで少ない。というのは、志を持って少し動き始めると、出会う人は限られているように感じます。また、意外と保守的だけど、何かひとつのことをやり続けていると、必ず見ていてくれる人がいて評価してもらえると感じます。

### 社会で女性が活躍することについて

女性であることのデメリットをメリットに変えたとき、女性の最大限の力が発揮できると思う。出産と育児はその最たるもの。「～だからできない」ではなく、「～だからこそ、今の自分にできることは何か」という発想の転換をライフワークに生かせるのも女性の強み。

### 今後の目標・展望など

「来mamaルーム」のフランチャイズ化が夢。ソーシャルビジネス（法人）としてなのか、行政に対してのアイデア提供としてなのか、どのような形で実現したいのか今の自分にはわからない、というのが正直なところ。課題でもあります。

### 活動を望む女性へのメッセージ

夢があるなら、とにかく小さな一歩を踏み出してみること。まずは人に自分の夢を話してみる。今の立場でできることを少しずつ。日々の小さな積み重ねが、自分を予想外のところに連れて行ってくれるはず。自分と向き合い、目標と目的を履き違えないことも大切。